

◆ 奉賛申込方法

専用の申込書をご記入いただき、
FAX・メールまたは郵送にてお申し込みください。
FAX.082-261-4686
Mail: info@hiroshima-toshogu.or.jp

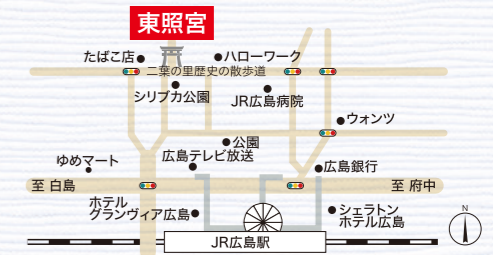
◆ 奉賛金納入方法

- ①現金によるご奉賛
社務所にてお申し受け致します。
- ②郵便振替によるご奉賛
専用の振込用紙をご利用ください。
- ③銀行振込によるご奉賛
下記の振込先をご利用ください。

※②③とも取扱金額が10万円を越える場合は
本人確認書を提示する必要があります。

口座名義 宗教法人東照宮
代表役員 久保田 実技(クボタ マサキ)

銀行名	支店	普通預金
広島銀行	広島駅北口支店	3099158
もみじ銀行	広島光町支店	1643307
広島信用金庫	愛宕支店	0447543



お申込み・お問合わせ  **広島東照宮**

〒732-0057 広島市東区二葉の里二丁目1-18
TEL.082-261-2954 FAX.082-261-4686
<https://www.hiroshima-toshogu.or.jp/>



広島市指定重要有形文化財補助事業 東照宮本地堂保存修理工事

— ご奉賛のお願い —

周辺整備事業

広島東照宮

Hiroshima Toshogu

貴重な文化遺産を 令和から未来へ

本地堂とは

本地堂は、今からおよそ三七五年前(一六四八)東照宮創建の折、御祭神徳川家康公の本地仏である薬師如来をお祀りする堂として建立されました。

諸藩が造営した東照宮の本地堂としては全国唯一の遺構です。

江戸時代の建築様式を今日に伝えている数少ない文化遺産の一つで、非常に貴重な建造物であります。

建物全体に朱漆塗が施され、四方の鬘股は極彩色の彫刻が配されるなど、重厚かつ荘厳で格式が高く、当宮付属社殿の中でもとりわけ重要な位置を占めています。

明治元年(一八六八)の神仏判然令により、全国の本地堂の多くが取り壊されるなかで、

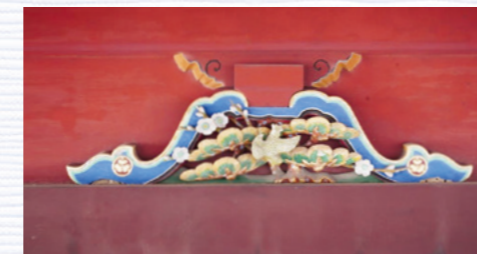
当宮でも安置仏と須弥壇は撤去されましたが幸い建物は取り壊しを免れ、更には原爆の被災をも逃れ今日に至っています。

様々な苦難を乗り越えてきた本地堂が、往時の美しい姿を甦らせて、平和な未来と人々の安寧を願い、広島の世界遺産として歴史を紡いでいきます。

① 鬘股彫刻



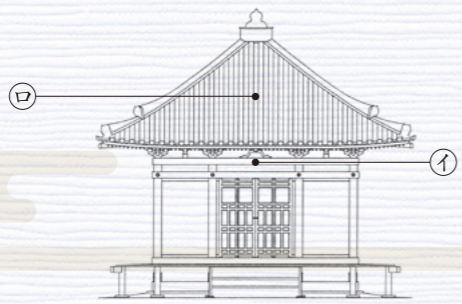
許由牛をひく図(知新集より)



松梅にうぐいす



本地堂



㊦

①



㊦ 屋根の内部(栱木など)



◆事業企画

工事期間 令和3年8月～令和6年3月31日
 工事内容 1、本地堂解体修理
 2、境内整備
 総工費 約2億2000万円

玉垣・石灯籠設置場所



◆奉賛金について

目標金額 8000万円

*奉賛者名はご神前に奉納します

ご芳名をご神前に奉納し奉告祭を斎行します。

*玉垣でのご奉賛

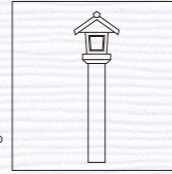
200万円以上	大(正面付近)	18cm角	高さ110cm
150万円以上	中(正面付近)	15cm角	高さ100cm
100万円以上	大(本地堂周辺)	18cm角	高さ110cm
60万円以上	中(本地堂周辺)	15cm角	高さ100cm
30万円以上	小(本地堂周辺)	12cm幅	高さ73cm

※ご芳名の刻銘については申込用紙をご覧ください。

※玉垣の設置場所は、ご神前での籤により定めます。
 但し100万円以上の方の玉垣は、籤による順に希望場所とします。
 (籤は当宮に一任いただきます)

*石灯籠でのご奉賛

150万円以上 石灯籠 高さ約1.6m
 坂道の参道沿いに建立しご芳名を記します。



※石灯籠イメージ図

*銘板でご芳名を顕彰します

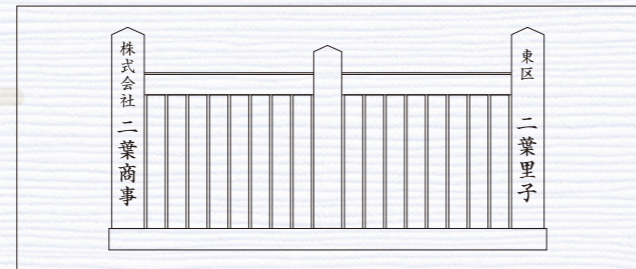
3万円以上の方のお名前を金属製の銘板で顕彰し
 永世に伝えて参ります。

*ご奉賛は上記金額にかかわらず有難くお受け致します。

(1万円・5万円・10万円など)

◆屋根瓦寄進について

一枚 5000円 ※瓦の裏面に願ひ事・ご芳名などをお書き下さい。



※玉垣イメージ図(本地堂周辺)

この度、保存修理工事を行う本地堂は、先述の通り非常に価値の高い数少ない文化遺産であります。老朽化がすすみ損壊が危ぶまれる状態となり、広島市の補助・指導を得て全解体修理を行うことになりました。今後、国指定の重要文化財を目指して参ります。

先人達の優れた技と心の精髓であり、人々の貴重な共有財産である文化財を後世に伝えていくため、崇敬者各位をはじめ、広くお志のある方におかれましては、誠に恐縮に存じますが、格別のご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

ご奉賛に当たりましては、ご芳名をご神前に奉納し、玉垣、灯籠、銘板等に刻み、ご功績を称え、永世に残して参ります。

東照宮本地堂保存修理工事及び周辺整備事業奉賛会

奉賛会世話人

山根 恒弘 久保田育造
 久保 允誉 山本 一隆
 松木 孝和 高野憲一郎
 山肩 俊晴 長沼 毅
 脇坂 慶博 尼子 昌夫
 東照宮世話役会会長 松島 岩樹
 世話役一同 久保田実技

広島東照宮は、慶安元年(一六四八)、城下町広島が一望できる二葉山の地に、徳川家康公を祀る神社として創建されました。当時の広島藩主浅野光晟公は造宮に入念を極め、その社殿は「観望の美麗なるは毛利氏築城以来第一のもの」と言われ、城下町広島総鎮守社、繁栄と勝運、そして平和の守護神として、人々の篤い崇敬をうけ親しまれてまいりました。

昭和二〇年(一九四五)原爆投下による熱線と爆風で、檜皮葺の本殿拝殿は崩壊し炎上。瓦葺の付属社殿(本地堂・唐門翼廊・御供所・手水舎)は損傷したものの類焼を免れたため、昭和五〇年以降、順次広島市の重要有形文化財に指定されました。

